

**【表紙】**

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	2020年10月13日
【四半期会計期間】	第47期第2四半期（自 2020年6月1日 至 2020年8月31日）
【会社名】	株式会社スタジオアリス
【英訳名】	STUDIO ALICE Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 牧野 俊介
【本店の所在の場所】	大阪市北区梅田一丁目8番17号
【電話番号】	(06)6343-2600
【事務連絡者氏名】	専務取締役 宗岡 直彦
【最寄りの連絡場所】	大阪市北区梅田一丁目8番17号
【電話番号】	(06)6343-2600
【事務連絡者氏名】	専務取締役 宗岡 直彦
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第46期 第2四半期連結 累計期間	第47期 第2四半期連結 累計期間	第46期
会計期間	自2019年3月1日 至2019年8月31日	自2020年3月1日 至2020年8月31日	自2019年3月1日 至2020年2月29日
売上高 (千円)	17,659,477	13,631,814	38,879,090
経常利益(は損失) (千円)	419,187	472,785	3,330,424
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益(は損失) (千円)	66,577	980,842	1,209,620
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	177,457	1,016,128	1,258,601
純資産額 (千円)	23,313,789	22,884,341	24,749,848
総資産額 (千円)	34,433,548	41,180,880	34,591,201
1株当たり四半期(当期)純利益金額(は損失) (円)	3.92	57.75	71.22
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	64.5	52.8	68.2
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	369,256	402,857	4,551,924
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	3,614,261	2,564,320	5,029,170
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	566,981	7,226,789	874,661
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (千円)	9,284,852	15,674,779	10,612,152

回次	第46期 第2四半期連結 会計期間	第47期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自2019年6月1日 至2019年8月31日	自2020年6月1日 至2020年8月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	3.58	51.65

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 第46期第2四半期連結累計期間及び第47期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 第46期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、多くの企業活動や消費動向に影響を与え、依然として終息が見えないことから景気の先行きが不透明な状況が続いております。

当社グループにおける新型コロナウイルス感染拡大の影響による店舗の状況につきましては、4月7日に発令された緊急事態宣言対象区域である7都府県（東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県・大阪府・兵庫県・福岡県）内全ての240店舗で4月11日から臨時休業し、その後、4月16日に緊急事態宣言の対象区域が全国に発令されたことを受け、4月20日から全都道府県内の489店舗を臨時休業いたしました。当第2四半期連結会計期間末時点では、安全対策を万全にした上で全店舗が営業を再開しております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は13,631百万円（前年同期比22.8%の減少）、営業損失は564百万円（前年同期は419百万円の営業利益）、経常損失は472百万円（前年同期は419百万円の経常利益）、親会社株主に帰属する四半期純損失は980百万円（前年同期は66百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

各セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

#### （写真事業）

写真事業は、緊急事態宣言の全面解除後、安全対策を万全にした上で順次営業を再開し、臨時休業中にお越しいただけなかったお客様を中心に撮影件数は回復してまいりましたが、撮影件数は前年同期を下回りました。経費面につきましては、家賃の減免交渉など各種経費の削減に努めてまいりました。

国内写真館の出店状況は、移転2店舗、退店6店舗をおこない、ショッピングセンター内の区画移動・増床を含む改装を35店舗実施いたしました。

その結果、当第2四半期連結会計期間末の店舗数は、国内こども写真館487店舗（直営店舗478店・フランチャイズ店舗9店）、韓国の子会社におけるこども写真館2店舗を含め、489店舗となっております。

以上の結果、報告セグメントにおける写真事業の売上高は13,603百万円（前年同期比22.5%の減少）となり、セグメント損失は541百万円（前年同期は459百万円のセグメント利益）となりました。

#### （衣装製造卸売事業）

衣装製造卸売事業は、連結子会社の株式会社豊匠、および、その子会社である上海豊匠服飾有限公司において、引き続き当社向け衣装の更なる生産効率の向上によるコスト低減を図るとともに、当社が2020年1月にスタートした成人式革命『ふりホ』に関わる衣装・小物の調達に注力いたしました。

以上の結果、報告セグメントにおける衣装製造卸売事業の売上高は1,670百万円（前年同期比49.7%の増加）となり、セグメント利益は198百万円（前年同期比58.2%の増加）となりました。

(2) 財政状態の状況

資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における資産は、前連結会計年度末と比べ6,589百万円増加の41,180百万円となりました。

流動資産は、現金及び預金の増加等により、前連結会計年度末と比べ5,815百万円増加の21,023百万円となりました。

固定資産は、有形固定資産「その他(純額)」に含まれるリース資産の増加等により、前連結会計年度末と比べ774百万円増加の20,157百万円となりました。

負債の状況

当第2四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末と比べ8,455百万円増加の18,296百万円となりました。

流動負債は、新型コロナウイルス感染拡大による影響により、企業活動の混乱や停滞等が継続するような不測の事態に備えて、手元資金を厚くすることを目的に行った短期借入金の増加等により、前連結会計年度末と比べ7,730百万円増加の13,657百万円となりました。

固定負債は、退職金規程の改訂による退職給付に係る負債の増加及び固定負債「その他」に含まれる長期リース債務の増加等により、前連結会計年度末と比べ725百万円増加の4,638百万円となりました。

純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末と比べ1,865百万円減少の22,884百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上及び前連結会計年度の剰余金の処分(配当金支払い)などによるものです。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ5,062百万円増加し15,674百万円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果増加した資金は、402百万円(前年同期は369百万円の増加)となりました。主な内訳は減価償却費1,612百万円、前受金の増加額408百万円、法人税等の支払額465百万円などによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果減少した資金は、2,564百万円(前年同期は3,614百万円の減少)となりました。主な内訳は、写真スタジオの新規出店及び既存店の改装・設備追加等にかかる支出2,664百万円などによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果増加した資金は、7,226百万円(前年同期は566百万円の増加)となりました。主な内訳は、短期借入金の純増加額7,650百万円、配当金の支払額849百万円などによるものです。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	30,888,000
計	30,888,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2020年8月31日)	提出日現在発行数(株) (2020年10月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	17,185,650	17,185,650	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	17,185,650	17,185,650	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2020年6月1日～ 2020年8月31日	-	17,185,650	-	1,885,950	-	2,055,449

(5) 【大株主の状況】

2020年8月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
(株)トーランス・ジャパン	大阪市西区北堀江2-11-15	3,962	23.33
富士フイルム(株)	東京都港区西麻布2-26-30	3,445	20.28
本村 昌次	大阪府吹田市	512	3.02
スタジオアリス従業員持株会	大阪市北区梅田1-8-17	387	2.28
日本マスタートラスト信託銀行(株) (信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	345	2.04
GOVERNMENT OF NORWAY (常任代理人 シティバンク、エヌ・エイ東京支店)	BANKPLASSEN 2,01070SLO 1 OSLO 0107 NO (東京都新宿区新宿6-27-30)	248	1.46
山本 滋	大阪府吹田市	201	1.19
(株)日本カストディ銀行(信託口5)	東京都中央区晴海1-8-12	198	1.17
(株)三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2-7-1	195	1.15
(株)日本カストディ銀行(信託口9)	東京都中央区晴海1-8-12	145	0.85
計	-	9,641	56.77

(注) 1. 上記日本マスタートラスト信託銀行(株)、(株)日本カストディ銀行の所有株式数は、全て信託業務に係るものがあります。

2. 上記のほか、自己株式が201千株あります。

## (6)【議決権の状況】

## 【発行済株式】

2020年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 201,500	-	単元株式数 100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 16,964,500	169,645	同上
単元未満株式	普通株式 19,650	-	1単元(100株) 未満の株式
発行済株式総数	17,185,650	-	-
総株主の議決権	-	169,645	-

## 【自己株式等】

2020年8月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(株)スタジオアリス	大阪市北区梅田 1-8-17	201,500	-	201,500	1.17
計	-	201,500	-	201,500	1.17

## 2【役員の状況】

該当事項はありません。



## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2020年6月1日から2020年8月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（2020年3月1日から2020年8月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年2月29日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	11,072,650	16,135,277
受取手形及び売掛金	838,574	1,094,714
たな卸資産	1,803,783	1,520,213
その他	1,523,508	2,298,483
貸倒引当金	30,000	25,000
流動資産合計	15,208,516	21,023,688
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	8,302,333	8,021,942
その他(純額)	4,377,273	5,164,849
有形固定資産合計	12,679,606	13,186,791
無形固定資産		
991,874		901,895
投資その他の資産		
敷金及び保証金	3,316,671	3,312,079
その他	2,616,532	2,978,425
貸倒引当金	222,000	222,000
投資その他の資産合計	5,711,204	6,068,504
固定資産合計	19,382,685	20,157,191
資産合計	34,591,201	41,180,880
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	240,225	442,184
短期借入金	-	7,650,000
未払法人税等	581,165	231,695
賞与引当金	182,332	341,337
ポイント引当金	92,500	97,080
その他	4,831,377	4,895,426
流動負債合計	5,927,600	13,657,723
固定負債		
退職給付に係る負債	1,102,910	1,232,083
資産除去債務	1,651,339	1,647,127
その他	1,159,502	1,759,605
固定負債合計	3,913,753	4,638,815
負債合計	9,841,353	18,296,539

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年2月29日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年8月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,885,950	1,885,950
資本剰余金	2,055,449	2,055,449
利益剰余金	19,866,198	18,036,148
自己株式	276,159	276,330
株主資本合計	23,531,438	21,701,217
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,407	29,404
為替換算調整勘定	73,058	65,125
その他の包括利益累計額合計	74,465	35,720
非支配株主持分	1,143,944	1,147,403
純資産合計	24,749,848	22,884,341
負債純資産合計	34,591,201	41,180,880

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)
売上高	2 17,659,477	2 13,631,814
売上原価	13,619,156	11,265,955
売上総利益	4,040,321	2,365,859
販売費及び一般管理費	1 3,620,944	1 2,930,269
営業利益又は営業損失( )	419,376	564,409
営業外収益		
受取利息	1,100	1,170
受取配当金	-	9,129
受取家賃	11,175	11,026
受取補償金	16,622	1,736
為替差益	-	966
助成金収入	-	101,971
雑収入	12,366	23,181
営業外収益合計	41,264	149,181
営業外費用		
支払利息	7,994	14,905
店舗解約損	26,651	41,968
為替差損	2,605	-
雑損失	4,202	683
営業外費用合計	41,454	57,557
経常利益又は経常損失( )	419,187	472,785
特別利益		
固定資産売却益	229	2,301
特別利益合計	229	2,301
特別損失		
固定資産廃棄損	171,529	140,997
減損損失	128,976	129,607
新型コロナウイルス感染症による損失	-	3 496,685
特別損失合計	300,506	767,290
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )	118,911	1,237,773
法人税、住民税及び事業税	235,434	138,480
法人税等調整額	82,247	398,870
法人税等合計	153,187	260,390
四半期純損失( )	34,275	977,383
非支配株主に帰属する四半期純利益	32,301	3,458
親会社株主に帰属する四半期純損失( )	66,577	980,842

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)
四半期純損失( )	34,275	977,383
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	95,698	30,812
為替換算調整勘定	47,483	7,933
その他の包括利益合計	143,181	38,745
四半期包括利益	177,457	1,016,128
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	209,758	1,019,587
非支配株主に係る四半期包括利益	32,301	3,458

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )	118,911	1,237,773
減価償却費	1,635,731	1,612,336
のれん償却額	399	399
貸倒引当金の増減額( は減少)	8,380	5,000
賞与引当金の増減額( は減少)	147,259	159,005
退職給付に係る負債の増減額( は減少)	32,561	129,172
受取利息及び受取配当金	1,100	10,299
支払利息	7,994	14,905
為替差損益( は益)	657	302
固定資産売却損益( は益)	229	2,301
固定資産廃棄損	171,529	140,997
減損損失	128,976	129,607
売上債権の増減額( は増加)	268,590	257,373
たな卸資産の増減額( は増加)	155,137	279,974
仕入債務の増減額( は減少)	52,343	202,144
未払消費税等の増減額( は減少)	1,086,288	333,248
前受金の増減額( は減少)	351,422	408,852
その他の流動資産の増減額( は増加)	384,241	361,433
その他の流動負債の増減額( は減少)	246,262	61,390
その他	12,241	61,314
小計	1,328,044	869,586
利息及び配当金の受取額	71	9,274
利息の支払額	7,994	14,905
法人税等の支払額	950,865	465,571
法人税等の還付額	-	4,474
営業活動によるキャッシュ・フロー	369,256	402,857
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	2,229,921	2,427,748
有形固定資産の売却による収入	230	3,110
無形固定資産の取得による支出	279,666	134,276
投資有価証券の取得による支出	1,012,211	-
貸付金の回収による収入	600	-
敷金及び保証金の差入による支出	108,592	102,528
敷金及び保証金の回収による収入	64,598	141,349
その他	49,297	44,227
投資活動によるキャッシュ・フロー	3,614,261	2,564,320
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額( は減少)	1,300,000	7,650,000
セール・アンド・リースバックによる収入	798,100	1,171,788
ファイナンス・リース債務の返済による支出	681,904	745,619
自己株式の取得による支出	6	170
配当金の支払額	849,208	849,208
財務活動によるキャッシュ・フロー	566,981	7,226,789
現金及び現金同等物に係る換算差額	3,281	2,700
現金及び現金同等物の増減額( は減少)	2,681,304	5,062,626
現金及び現金同等物の期首残高	11,966,157	10,612,152
現金及び現金同等物の四半期末残高	9,284,852	15,674,779

【注記事項】

(追加情報)

2020年4月7日に新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言が政府から発表され、4月16日には緊急事態宣言が全国に拡大されたことにより、全国の当社店舗は臨時休業となりました。5月14日の緊急事態宣言解除以降、安全対策を万全にした上で順次営業を再開しており、ご予約数も昨年並みに回復いたしました。

このような状況のなか、記念写真需要はゆるやかに回復していくものと仮定しておりますが、感染拡大前の水準まで回復するには12月まで要するものと想定し、固定資産の減損、繰延税金資産の回収可能性等の会計上の見積りを行っております。

なお、将来における実績値に基づく結果が、これらの見積り及び仮定と異なる可能性があります。

(四半期連結貸借対照表関係)

たな卸資産の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2020年2月29日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年8月31日)
商品及び製品	435,928千円	285,746千円
仕掛品	235,677	205,279
原材料及び貯蔵品	1,132,177	1,029,187

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年3月1日 至2019年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年3月1日 至2020年8月31日)
給料手当	717,057千円	719,373千円
退職給付費用	17,966	51,588
広告宣伝費	1,761,782	1,172,592
減価償却費	67,991	71,167
のれん償却費	399	399
貸倒引当金繰入額	13,714	264

2 売上高の季節的変動

前第2四半期連結累計期間(自2019年3月1日 至2019年8月31日)及び当第2四半期連結累計期間(自2020年3月1日 至2020年8月31日)

当社グループの写真事業では、主として第3四半期の撮影機会(七五三等)が多いため、通常、第3四半期連結会計期間の売上高は他の四半期連結会計期間の売上高と比べ、著しく高くなっております。

3 新型コロナウイルス感染症による損失

当第2四半期連結累計期間(自2020年3月1日 至2020年8月31日)

新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、政府から発令された緊急事態宣言を受け、当社グループの店舗において臨時休業の実施、また、女子オープンゴルフの中止等を行いました。

このため、臨時休業期間中の各店舗において発生した固定費(賃借料・減価償却費等)、女子オープンゴルフ中止に係る費用等、新型コロナウイルス感染症の拡大に起因する損失を、新型コロナウイルス感染症による損失として特別損失に計上しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)
現金及び預金勘定	9,745,333千円	16,135,277千円
預入期間が3か月を超える定期預金	460,481	460,498
現金及び現金同等物	9,284,852	15,674,779

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自2019年3月1日 至2019年8月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年5月28日 定時株主総会	普通株式	849,208	50	2019年2月28日	2019年5月29日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自2020年3月1日 至2020年8月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年5月28日 定時株主総会	普通株式	849,208	50	2020年2月29日	2020年5月29日	利益剰余金



(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自2019年3月1日 至2019年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	写真事業	衣装製造卸売事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	17,533,887	125,590	17,659,477	-	17,659,477
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	13,783	990,195	1,003,978	1,003,978	-
計	17,547,671	1,115,785	18,663,456	1,003,978	17,659,477
セグメント利益	459,441	125,521	584,963	165,586	419,376

(注) 1. セグメント利益の調整額 165,586千円には、固定資産の調整額等 53,529千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 112,056千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「写真事業」セグメントにおいて、店舗の減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては128,976千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自2020年3月1日至2020年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	写真事業	衣装製造卸売事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	13,597,224	34,590	13,631,814	-	13,631,814
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	6,767	1,635,915	1,642,683	1,642,683	-
計	13,603,991	1,670,506	15,274,498	1,642,683	13,631,814
セグメント利益又は 損失( )	541,403	198,580	342,822	221,586	564,409

(注) 1. セグメント利益又は損失( )の調整額 221,586千円には、固定資産の調整額等 113,273千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 108,313千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「写真事業」セグメントにおいて、店舗の減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては129,607千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)
1株当たり四半期純損失金額	3円92銭	57円75銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失金額 (千円)	66,577	980,842
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純 損失金額(千円)	66,577	980,842
普通株式の期中平均株式数(千株)	16,984	16,984

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年10月9日

株式会社スタジオアリス

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 千崎 育利 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 奥村 孝司 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社スタジオアリスの2020年3月1日から2021年2月28日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2020年6月1日から2020年8月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（2020年3月1日から2020年8月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

**四半期連結財務諸表に対する経営者の責任**

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

**監査人の責任**

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

**監査人の結論**

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社スタジオアリス及び連結子会社の2020年8月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

**利害関係**

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。